

2025年11月25日（火） さいたま市立慈恩寺小学校

彦坂 優太 中津川 輝 倉元 明宏 西村 魁

ソプラノサクソフォン アルトサクソフォン テナーサクソフォン バリトンサクソフォン

ロッシーニ(1792-1868)：オペラ『ウィリアム・テル』序曲

イタリアの作曲家ロッシーニが1829年に書いたオペラ「ウィリアム・テル」の序曲です。序曲とは、オペラの最初に流れる音楽のことを指します。この曲は4つの部分から成り立ち、今回は独立して演奏されることの多い第4部「スイス軍隊の行進」をお届けします。

ホルスト(1874-1934)：組曲『惑星』より第4曲「木星」

イギリスの作曲家、ホルストが1916年、42歳の時に書き上げた7つの曲から成る組曲で、それぞれの曲には太陽系の惑星の名前が付けられています。今回演奏する「木星」は、堂々として雄大なメロディが果てしない宇宙の壮大さを感じさせる作品です。

ジョン・ウィリアムズ(1932-)：映画『ジュラシック・パーク』メドレー

ジョン・ウィリアムズは、「ハリー・ポッター」や「スター・ウォーズ」など数々の映画音楽を生み出してきました。今回は、映画「ジュラシック・パーク」の音楽をメドレー形式でお届けします。

バルトーク(1881-1945)：ブルガリアのリズムによる6つの舞曲よりNo.148、No.150

バルトークが1926年から1939年にかけて作曲した全6巻、153曲の小品からなるピアノのための練習曲集です。ブルガリアの民謡にしばしば使われているリズムを用いた2曲をサクソフォン四重奏用にアレンジしました。

バッハ(1685-1750)：G線上のアリア

この曲はヴァイオリン独奏曲として有名ですが、元々はバッハが作曲した「管弦楽組曲第3番」と呼ばれる作品の2番目の曲のことを指します。その後、別の作曲家がヴァイオリン独奏用にアレンジする時に、全てのメロディをG線上（ヴァイオリンの最低音の弦のこと）で演奏できるようにしたことから呼ばれるようになりました。

ドヴォルザーク(1841-1904)：弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』より第4楽章

ドヴォルザークが休暇で訪れたアメリカの小さな村で作曲したというこの曲は、アメリカの民族音楽の要素が散りばめられた作品です。今回演奏する第4楽章では、アメリカを走る機関車のエンジン音をモチーフにしたと言われており、軽快なリズムが特徴的な曲です。

タケカワ ユキヒデ(1952-)：銀河鉄道999

この曲は映画『銀河鉄道999』の主題歌として作曲され、今でも様々なアレンジをされながら親しまれています。メロディをサクソフォンが軽やかに奏で、銀河の中を駆け抜けるような疾走感が心地よい曲です。

アーティストプロフィール

彦坂優太（ひこさかゆうた）



千葉県松戸市出身。上野学園高等学校演奏家コースを経て、上野学園大学演奏家コース卒業。東京藝術大学別科修了。日本サクソフォン協会主催第19回jrサクソフォンコンクール第1位受賞。第10回横浜国際音楽コンクールサクソフォン部門高校生の部第1位受賞。第15回倉敷国際サクソフォンコンクール大学一般の部第2位受賞。第8回アドルフサックス国際コンクールセミファイナリスト。第40回日本管打楽器コンクール第3位受賞。第3回ドルチェ楽器アンサンブルコンクール東京大会第1位。第6回日本奏楽コンクールアンサンブル部門室内楽（サクソフォン四重奏）第一位及び、全部門においてグランプリを受賞。須川展也、ジャンイヴフルモー、ミーハ・ロギーナ、ニコラ・アルセニエビック各氏のマスタークラスを受講。彦三、Quartet Bamboo、Trio Les Couleurs各メンバー。サクソフォンを彦坂眞一郎、須川展也、松原孝政、長澤範和、大石将紀、田村真寛、本堂誠、榮村正吾の各氏に師事。室内楽を、彦坂眞一郎、須川展也、松井宏幸の各氏に師事。

中津川輝（なかつがわひかる）



大阪音楽大学を木管楽器首席で卒業。卒業時に優秀賞を授与される。同大学卒業演奏会に出演。東京藝術大学大学院修士課程修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞を授与される。第40回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門において第4位入賞をはじめとする様々な国内外のコンクールにおいて優勝、入賞。ソリストとしてザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団、アンサンブル・ムジーク・浜松と共演。ヤマハ管楽器新人演奏会、音大生による室内楽の夕べ、サクソフォン新人演奏会、オーディション選抜者による藝大室内楽定期演奏会に出演。これまでにサクソフォンを長瀬正典、西本淳、井澤裕介、高畑次郎、大石将紀、田村真寛、彦坂眞一郎、本堂誠、榮村正吾、須川展也の各氏に師事。室内楽を井上麻子、松井宏幸、須川展也の各氏に師事。これまでにクロード・ドゥラングル、ニコラ・アルセニエビック、ラース・ムレクシュ、アルノ・ボーンカンブ、アントニーノ・モリカ各氏のマスタークラスを受講。Quatuor La Fusion アルトサクソフォン奏者。Trio Les Couleursメンバー。現在は東京と浜松を拠点にフリーランスとしてオーケストラの客演奏者や後進の指導にあたっている。

倉元明宏（くらもとあきひろ）



神奈川県横須賀市出身。三浦学苑高等学校卒業。洗足学園音楽大学卒業、同時に優秀賞受賞。東京藝術大学別科修了。日本サクソフオーン協会主催、音大生によるサクソフオーン四重奏の夕べ、第19回サクソフオーン新人演奏会に出演。第15回くらしき国際サクソフオーンコンクール、大学生・一般の部にて第1位受賞。第8回ナゴヤサクソフォンコンクール、U25若手演奏家部門にて入賞。第25回浜松国際管楽器アカデミーにてJean-Yves Fourmeau氏のクラスを受講。これまでに、サクソフオーンを貝沼拓実、須川展也、彦坂眞一郎、田村真寛、本堂誠、大石将紀、榮村正吾の各氏に師事。室内楽を池上政人、松井宏幸、須川展也の各氏に師事。Trio Les Couleursメンバー。

西村魁（にしむらかい）



兵庫県出身。岡山県明誠学院高等学校特別藝術コースを経て東京藝術大学器楽科卒業。第3回ドルチェ楽器アンサンブルコンクール東京大会第1位、Fanny Mendelssohn International Online Competition 2023室内楽部門 第1位、第6回日本奏楽コンクールアンサンブル部門室内楽（サクソフォン四重奏）金賞及びグランプリを受賞。これまでにサクソフォンを牧祐介、長瀬敏和、平野公崇、須川展也、有村純親、大石将紀、本堂誠、彦坂眞一郎の各氏に師事。室内楽を本堂誠、彦坂眞一郎、松井宏幸の各氏に師事。2022年にロバート・ウィルソンとフィリップ・グラスによる『浜辺のアインシュタイン』の国内初の新規制作上演に参加。サクソフォン奏者本堂誠氏によるプロジェクト『BARITOLOGY』第1回公演より継続的に参加しており、バリトンサクソフォンの可能性を追求し、新規レパートリーや幅広いジャンルのバリトンサクソフォンの魅力を伝える活動や、国内プロ吹奏楽団の演奏会やレコーディングに参加するなど、様々なジャンルで演奏活動を行う。Quatuor La Fusion バリトンサクソフォン奏者。